

初めての美よう院

赤羽根小 四年 女子

わたしの一日は、学校や習い事で終わって  
しまいます。しかし、この夏、初めてのけい  
験をしました。  
わたしは、初めて行く所が苦手です。初め  
て会う人と話すことがきらいだからです。そ  
んなわたしが、初めて美よう院に行きました  
生まれてからずっと、お母さんがかみを切っ  
てくれていました。しかし、大きくなったか  
ら、もう切らないと言いました。その言葉を  
聞いたとき、不安でいっぱいでした。  
美よう院に行く日になりました。  
「習い事が終わったら、そのまま行くよ。」  
とお母さんが言いました。わたしは、習い事  
の間も、心ぞうがドクンドクンとしていまし  
た。習い事が終わって美よう院に行くと、少  
し早く着きました。わたしの頭の中は、不安  
やきんちようでいっぱいでした。一分、二分  
と時間が過ぎていき、車の中で待っているだ  
けなのに、大きな声が出てしまいました。予  
約の時間の五分前になると店内に入りました

。

。

お店の中に入ると、大きなソファにすわ  
りました。名前をよばれ、まずシャンプー台  
に行きました。わたしは、ここで何をするの  
かわかりませんでした。でも、美ようしさん  
が、ていねいに教えてくれました。初めての  
シャンプーは、とても気持ち良かったです。  
ふだんは、自分でシャンプーをしています。  
人にあらってもらうので、きちんとならえて  
いるか不安でした。シャンプーをしてもらう  
と、すごくきれいになった気がしました。あ  
らってもらっているうちに、わたしのときど  
きは消えてしまっ、かみの毛を切ってもら  
うことが楽しみになっていきました。

シャンプーが終わると、今度は大きな鏡が  
前にある回るいすにすわりました。いすにす  
わると、今度は白い大きなぬをかぶりまし  
た。初めてのけい験ばかりで、次に何をやる  
のかどきどきしている、かみの毛をくしで  
とかし始めました。ぬをかぶって、くしで  
かみをとかしてもらっている自分を鏡で見た

とき、まるでおひめ様になった気分でした。  
次に、美ようしさんは、はさみを持ち出し  
ました。わたしのかみの毛を持つと、チヨキ  
チヨキとゆっくり切り始めました。かみの毛  
がぱさぱさとゆかに落ちて、自分のかみの毛  
が短くなっっていくことがわかりました。  
お母さんが切ったときは、ひもを切ってい  
るような音で、早く終わらないかなと思っ  
ていたけれど、美よう院では、おひめ様になっ  
た気持ちだったので、心がわくわくして明る  
い気持ちになれました。この時間が続けばい  
いなと思いました。そんなことを考えていた  
ら、もう一度シャンプー台に行くことになり  
ました。二回目のシャンプーは、一回目のと  
きよりきんちようせずできました。  
もう一度いすにもどったら、次はドライヤ  
ーでかみをかわかしました。ドライヤーは、  
他の音が何も聞こえないくらい大きな音でし  
た。でも、家のドライヤーよりも早くかわき  
ました。かわく速さに感動しました。美よう

しさんは、くしを持ちながら、ドライヤーも  
持ってかみをかわかしていました。両手を使  
いました。道具を使いわけるすがたがすごいと思  
いました。アイロンをかけたかみの毛は、まっす  
ぐになって、わたしの理想のかみがたでした  
終わったときには、最初のどきどきしていた  
気持ちが無くなったことに気づきました。  
初めてのこととは、まだきんちようするし、  
いやだけれど、この美よう院だったら、また  
行きたいと思いました。  
わたしのゆめは、カフェを開くことです。  
しかし、美ようしというすてきな仕事もある  
ということを知ることができてよかったです。  
まだ、わたしの知らない仕事や知らないこ  
とがあると思います。初めはきんちようする  
と思うけれど、少しずつ知ることができると  
いいなと思いました。きちょうなけい験をし  
た夏休みでした。